

神の栄光を見よ



デモス・シャカリアン著

目 次

序文	3
はじめに	4
第1章 旧約聖書の栄光	6
第2章 イエスの栄光	10
第3章 終わりの日の栄光	12

序文

デモス・シャカリアンの遺産は、フル・ゴスペル・ビジネスマンズ・フェローシップ・インターナショナル（世界で最も偉大なキリスト教信徒組織）以上のものです！

その遺産の一部には、世界中のほとんどすべてのキリスト教組織に波及しているカリスマ運動もあります。

この小冊子『神の栄光を見よ』もそのひとつで、クリスチャンに聖なる生活を呼びかけます。

これによって、教会と世界に神のシェキナ（臨在）の栄光がもたらされるのです！

キリストにあって、心からあなたがたに

ヴィンソン・シナン

北米刷新奉仕委員会

はじめに

親愛なるパートナー

数ヶ月前、ニューヨーク州オルバニーの朝食会で牧師をしていたとき、神の油注ぎが強く降り注ぎ、私は説教を続ける言葉を見つけることができませんでした。

全員が一斉に席を立ち、神の栄光を自分の人生に受け入れるために、心を開いて準備万端で前方に移動しました。

私が祈ると、男性も女性も神の臨在の下に立ってられずに床に倒れ込みました。神のシェキナ（臨在）の栄光はとても力強く、聖徒たちは礼拝と敬虔と祈りのために床にひれ伏しました！

その圧倒的な油注ぎの時間は、とても特別なものでした。しかし、「愛する者たちよ、私ができる最も強い言葉ではっきりと言おう」あの日は始まりに過ぎなかったのです！

私がオクラホマ州タルサのメイヨーホテルのクリスタル・ボールルーム(宴会場)で目撃した青年集会で、200 人の若い男女が神の臨在の中で靴を脱いだとき、神の臨在が支配したように、神の栄光の激しさが私たちのフェローシップの集会や会議を支配する時が来ると私は見えています。

聖霊はそのボールルームでとても力強く、若者たちは神の御前で2時間にわたって顔を伏せました！

ラビ・ロビンズ牧師はその日、私と一緒に客席を歩き、貴重な若者たちの輝く顔を見ました！ラビは私にこう言いました、「デモス、これが何だかわかるかい？旧約聖書で語られていることだよ。彼らの顔の輝きは、神のシェキナ（臨在）の栄光なんだ！」と。

そして彼は泣き出しました。この神聖な神の臨在の時間には、説教はまったくなかったのです！私たち全員が、畏敬の念を抱かせる主の御力と栄光の下で、ただ従順で仰ぎ見ました。聖霊の臨在は、その部屋全体のあらゆる繊維と細胞に浸透していました。

客席を横切って反対側に行くことはできず、青みがかった天の靄が客席の空気に立ち込めていました。

「愛する者よ、そのような栄光の日が再び戻ってくる」のを私は見えています。世界中の人々、ナイジェリアから飛行機でやってくる人々、カナダから車でやってくる聖徒たち、彼らの人生における神の力を体験しようとする人々で、ボールルーム全体がはじけ飛ぶ日が来ました。「私の言葉に耳を傾けてほしい。」これらの言葉は、あなた方を鼓舞するための単なる激しいスローガンではありません。それは神からの力強いメッセージであり、霊的な歴史におけるこの重要な終末の瞬間に、私が今、あなた方と分かち合うことを神が望んでおられる正確な啓示なのです。

1988 年の最初の数ヶ月間、私は熱心に祈り、断食し、今年のフェローシップの方向性について神に求めてきました。私の身に、私の心に、そして私の靈魂に入り続けているビジョンは、私たちが間もなく、神の栄光がますます強まるのを目撃するということです！

私は、神の偉大な栄光がこの地上に解き放たれようとしているのを見ています！神は私たちの心を開き、神の平安、神の喜び、神の栄光を私たちに与える用意をなされています！

しかし、この地上での天国のような経験への道は容易ではありません。

神の栄光への唯一の道は、聖さを通してです。率直に言って、今の時代、聖さはあまり人気のあるメッセージではないですが、聖書の真理です！現代には多くの誤った教えがありますが、聖書は神を動かすものについて明確に述べています。

1.いくら稼いでも、神の御心を捉えることはできません。

2.あなたの巨大企業ビジネスの大きさは、神を動かすものではありません。

神を感動させ、神の栄光を解き放つことができるのは、私たちがイエスの血によってきよめられ、神に仕える者として心をゆだね、神が命じられたとおりに純粋な生活を送ることです。私たちがそれを成し遂げるとき、神はご自身の御力と栄光を私たちに注いでくださるのです！

今日、私はこの小冊子を通して、あなたが神に心を開き、神の真理を受け取り、そして神があなたの人生に御霊を注がれるようにチャレンジしたいと思います。この小冊子を通して、あなたは旧約聖書と新約聖書の両方に流れる神の栄光のパターンがあることを知るでしょう。この小冊子では、神がご自身の栄光を地上に流されるように導く、聖書的な準備の進行を明らかにします。

あなたの人生に神の栄光が欲しいですか？

神の臨在を望みますか？

私はそう信じています。

そして、あなたが人生に主の栄光を受けるとき、主はあなたのあらゆる必要を満たしてくださいます。主はあなたの体を癒してくださり、主はあなたの傷を癒してくださいます。あなたの人生を変えてくださいます。

私はこの小冊子を書きながら、神の啓示を祈り求めてきました。今、私が祈ることは、あなたが心を開き、イエスの血によって清められた聖人が、神の栄光を受けるために神から定められた道であることを聖霊が示してくださるようになることです。

あなたが神の御言葉を受け取るとき、神があなたを祝福してくださいように。

主の栄光の奉仕のうちに

デモス・シャカリアン

追伸：ご注意ください。このページに書かれている言葉は、単なる聖書の勉強ではありません。

祈りをもって、心を開いてこの小冊子を読んでください。

神はあなたを力強く祝福してくださるでしょう！

「そのとき、雲が会見の天幕を覆い、主の栄光が幕屋を満たした。雲がそこにとどまり、主の栄光が幕屋を満たしたので、モーセは会見の天幕に入ることができなかった」。(出エジプト記 40:34,35)。

第1章 旧約聖書の栄光

神への道は聖さを通してです。

聖さは純潔によって達成されます。

旧約聖書の時代、清くなる方法は血の犠牲によるものでした。動物の血は、人の罪を清めるために用いられました。だから、死の天使は血を見ると、中にいる者たちの家の上を通り過ぎたのです。

「それから、モーセはイスラエルのすべての長老たちを呼んで言った。そして、あなたがたはヒソブの束を取り、それを盆の中にある血に浸し、その血でかまいと両側の門柱を打ちなさい。主は、かまいと両側の門柱の上の血をご覧になると、戸の上をお通りになり、滅ぼす者があなたがたの家に入って来て、あなたがたを打つのをお許しにならないからである。」

(出エジプト記 12:21-23)

この過程がわかるでしょうか？

まず、子羊の血が必要だったのです。

そして、その血をそれぞれの家に塗らなければならなかったのです。

最後に、その血が覆い、守りとなって、破壊者が家に入ってきて死をもたらすことはなかったのです。動物の血の犠牲の目的は明確でした。覆いとして働き、受ける者を清め、罪を贖うことでした。

旧約聖書における神の栄光を受けるための第一歩は、血のいけにえによって清められることです。モーセの時代、神はご自身の民の間に住まわれる幕屋を建てるように言われました。この幕屋を建てる準備のために、神は心ある人々から供え物を求めました。

「金、銀、真ちゅう、青、紫、緋、亜麻布、山羊の毛、赤く染めた雄羊の皮、アナグマの皮、シッティムの木、灯火のための油、油注ぎのための香料、甘い香のための香料、オニキスの石、エフォドと胸当てのために据える石。また、あなたがたのうちで知恵のある者は皆来て、主が命じられたものをすべて作らなければならない。」(出エジプト記 35:5-10)

もし私が、旧約聖書で神が要求された献身を果たすよう男性たちに挑んだら、今日の集会で悲鳴が上がることを想像できるでしょうか？「今こそ献げる時です。もしあなたが進んで聖徒であるなら、お金、株、債券、最高のリネン、最高の服、そして持ってきたかもしれない貴重な宝石類（結婚指輪、金の鎖、ダイヤモンドのイヤリング）神はすべてを望んでおられます！」と言われたら、あなたはどうか反応しますか？

私が会議でそんなことを言ったら、おそらく半分の人はいれて出て行くでしょう。「デモス・シャカリアンは金のことしか考えていない」と確信して！残りの半分は残るでしょうが、私が次にどんなクレイジースタント（危険な離れ技）を仕掛けてくるのか、興味本位で見ただけでしょう！しかし、それこそが旧約聖書で神が献げ物を受け取る方法であり、神の民はそれに応えたのです。

「彼らは、その心をかき立てられた者、その霊が喜ばせた者、みな来て、会見の天幕の働きと、すべての奉仕と、聖なる衣のために、主のささげ物を持って来た。」(出エジプト記 35:21)
これらの箇所や出エジプト記 35 章の他の箇所を学ぶと、二つの形容詞が繰り返し出てくることに気づくでしょう。それは、**"賢い心"**と **"意欲的な心"**である。聖書は、神殿の建設者たちが非常に意欲的であり、賢明であったので、モーセが彼らの物質的な富をこれ以上神に献げることを止めさせなければならなかったと語っています。

「彼らはモーセに言った、『民は、主が造れと命じられた仕事のために、十分すぎるほど持って来ています。』そこでモーセは戒めを与え、これを陣営中に宣べ伝えさせた。そこで民は捧げることを禁じられた。彼らの持っていたものは、それを作るすべての仕事に十分であり、多すぎたからである。」(出エジプト記 36:5-7)

天の父なる神よ、私たちのフェローシップにおいて、進んで寛大になる精神が私たちのあらゆる行動に浸透する時が来ることを祈ります。モーセが聖所を建造するためにそれらを必要としたように、私たちの奉仕活動を構築するためには、資材、人手、道具が必要です。彼らは豊富な材料と非常に正確な指示から聖所を造りました。神はモーセに聖所の造り方を告げられました。何キュビトに、このような広さ、このような深さに、至聖所、内室、香祭壇、柱、細部に至るまで完備するようにです。完成に近づいたとき、彼らは、聖なる冠の板を純金で作し、その上に、印章の刻印のように、『主の聖なるもの』と記しました。(出エジプト記 39:30 参照)

おわかりでしょうか？

主はご自分の子供たちに幕屋（天幕）を建てるように命じられ、建物のすべての部分について非常に具体的な指示を与えられました。幕屋が完成したとき、神はご自分の子供たちに、幕屋に一つのことを書き記すように命じられました（読者の聖書で照合）。**「神聖さは、何よりも神にとって重要である。」**幕屋が準備された後、神は祭司を召されました。

「彼らの油注ぎは、彼らの代々にわたって、永遠の祭司職となるであろう」(出エジプト記 40:13-15)。(出エジプト記 40:13-15)

そして、主の祭司たちを通して、神に犠牲の供え物をささげました。

「主がモーセに命じられたように、彼は会見の天幕の幕屋の戸のそばに燔祭の祭壇を置き、その上に燔祭と肉供えとをささげた。」(出エジプト記 40:29)

イスラエル人がこれらのいけにえを捧げた後、神の栄光がその天幕に入ってきました！

それは力強いものでした！モーセでさえ、神の臨在のために幕屋に入ることができなかったほどです！

「雲がそこにとどまり、主の栄光が幕屋を満たしていたので、モーセは会見の天幕に入ることができなかった。」(出エジプト記 40:35)

愛する皆様、神との歩みについて正直になりましょう。今日、私たちは、神の愛と理解の本質に重きが置かれすぎています。私たちの過ち（神はそれを罪と呼ぶ）を赦す用意が常にあり、喜んで赦される神。神の本質にはもう一つの部分、聖なるものでないものを軽蔑し、嫌

悪する部分があることを忘れてしまっています。

「主の御名にふさわしい栄光を主に帰せよ。ささげ物を持って、主の前に出よ。」(1 歴代誌 16:29)

神は聖なる者でない者とは関わりたくないのです。

「わたしは、あなたがたをエジプトの国から導き出し、あなたがたの神とされた主である。」(レビ記 11:45)。

それが、神が動物の血のいけにえを命じられた理由です。彼らの生涯の罪を贖い、神の目に聖なる者とするためです。ソロモンは神殿を建て、神はその日を祝うためにラッパ吹きと歌い手たちを連れてくるように言われました！

「祭司たちが聖なる所から出て来ると、歌い手であるレビ人が、シンバル、プサルテリ（手琴）、琴を持って祭壇の東の端に立っており、彼らと共に百二十人の祭司がラッパを鳴らしていた。彼らがラッパとシンバルと楽器をもって声を張り上げ、主を賛美して言った、『主はいつくしみ深く、その慈しみはとこしえまで続くからです』。主の栄光が神の家を満たしたからである。」(Ⅱ歴代誌 5:11-14)

この箇所は、神の性質と、神が喜ばれることについて、多くのことを私たちに示しています。神の輝きと栄光は非常に大きく、彼らが聖別され、一つとなって、主を歌い、賛美し、感謝したとき、神の家全体が青っぱい雲で満たされ、祭司たちは立って奉仕することができませんでした！賛美は礼拝に欠かせないものでした。旧約聖書の祭司は至聖所で神と出会いましたが、この奇跡的な出会いに必要な前提条件は、感謝と賛美でした。

「感謝をもってその門に入り、賛美をもってその宮廷に入りなさい。」(詩篇 100:4)。

私たちの祈りと賛美と感謝によって、モーセが神の民の間に神が住まわれる幕屋を建てるよう指示されたときに経験したのと同じ力が、今日の私たちの生活にも存在することができるのです。しかし、集会や会議で祈りや賛美がどのようなものであるべきかについて、あらかじめ抱いている期待をすべて解き放ってください。**賛美に決まった公式はありません！**聖書は、神を賛美するために「こうしなければならない」「こう歌わなければならない」と教えてはいません。私たちの天の父は、神への賛美に多様性、自発性、表現の自由を認めておられるのです。私たちもそうであるべきです。手を挙げるといような一つだけの賛美の表現を示す人は、霊の行進を選ぶ人や、座って目を閉じて神を賛美することを好む人よりも、神の栄光への道に遠く及びません。

神は、私たちが自分自身を自由に表現し、自分にとって心地よい方法で神を賛美することを望んでおられます。結局のところ、神が楽しんでおられる多くの楽器をご覧ください！

「ラッパの音で主をほめたたえよ、詩篇とハープで主をほめたたえよ。ラッパの音で主をほめたたえよ。弦楽器とハープで主をほめたたえよ。大音量のシンバルをもって主をほめたたえよ。息吹くすべてのものに主をほめたたえさせよ。主をほめたたえよ。」(詩篇 150:3-6)

賛美と礼拝は、神が栄光のうちに住まわれる個人的な神殿を作るために不可欠な要素です。そして、それはなんと力強い栄光でしょうか！モーセが山上で神と交わるときはいつも、民

のもとに戻るとき、彼の顔は輝いていました。その輝きはあまりに眩しかったので、モーセはその顔を見つめる人々を守るために、自分の顔をベールで覆わなければなりませんでした！

「モーセがシナイ山から下りて来たとき、モーセが彼と話している間、彼の顔の皮膚は輝いていた。アロンとイスラエルのすべての子らとがモーセを見ると、見よ、顔の皮が光った。そして、モーセは彼らと話し終わるまで、その顔にベールをかぶった。」(出エジプト記 34:29-34)。

その後、イスラエルの民が幕屋で神を礼拝したとき、神の臨在は圧倒的で、モーセは天幕の中に入ることもできませんでした。

「雲がそこにとどまり、主の栄光が幕屋を満たしていたからである。」(出エジプト記 40:35) 旧約聖書の学びから、神はご自身の栄光を民に現す前に、期待し、尊ばれる特定の行動があったことがすぐに明らかになります。

- 1.神は、聖なる者でない者とは一切関わりを持たれず、聖なる者への道は、罪を贖う血の犠牲を必要とされました。
- 2.祭司を通して、神の前に供え物が捧げられました。
- 3.賛美と礼拝は、文字通り神の栄光が宿る神殿を準備する雰囲気を作り出しました。

「見よ、主は雲とともに来られる。(黙示録 1:7)

第2章

イエスの栄光

旧約聖書では、神の子どもたちはモーセの律法の下で生きていました。旧約聖書の時代と同じように、神は今も私たちが清く聖なる者であることを期待しておられます。しかし、神は私たちに神の祝福を浴びせられる新しい優れた方法を持っておられます。モーセの律法を通して、神はご自身の永遠の道徳的絶対性を外的な方法で管理されました。律法の道徳的中心は、民の外にある石板に書かれました。イスラエル人の各世代は、イスラエル人の両親のもとに生まれ、外的に割礼を受けることによって、同じ律法の管理下に置かれたのであって、内的な変化によるものではなかったのです。モーセの律法は、内的変化の必要性を強調していました。

第1章では、喜んで与える心がいかに重要であるかを見ました。モーセの律法は内的変化を求めましたが、その変化を生み出すことはなかったのです。これとは対照的に、神は恵みによって、ご自身の永遠の道徳的絶対性を内的な方法で管理されます。イエス・キリストを主であり救い主として受け入れることによる内的変化によって生み出される "新しい性質" なのです。新約は石板に書かれたものではなく、私たちの心（クリスチャンの内的コントロールセンター）に置かれるものなのです。

新約聖書のいくつかの箇所は、イエス・キリストが初臨された時のミニストリーを通して、神の統治の新しい方法として恵みを確立されたことを示しています。そのいくつかを紹介しましょう。使徒ヨハネは次のように書いています、「律法はモーセによって与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストによってもたらされた。」(ヨハネ 1:17) 新しい恵みの時代は、イエス・キリストによって始まりました。旧約は断罪、死、怒りの宣教でした。「しかし、石に書かれ、刻まれた死の宣教が栄光に満ちたものであったなら、イスラエルの子らは、その栄光のためにモーセの顔を確固として見るができなかった。霊の宣教は、むしろ栄光に満ちているではないか。死刑の宣告が栄光であるなら、義の宣告はどれほど栄光にまさることであろうか」(II コリント 3:7-9) 私たちは違う時代に生きています！「あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるのです」(ローマ 6:14)。私たちはもはや律法の下にあるではありません。イエス・キリストは神の純粋な子羊として来られ、私たちの罪のための最後の血のいけにえとしてご自身を捧げられました。私たちは今、キリストの犠牲によって聖なる場所に入れるのです。「それゆえ、兄弟たち、私たちは、イエスの血によって、聖なる所に入る確信を持っているのです」(ヘブル 10:19-20) 神は神聖さを要求されるが、人間は決して自分自身を神聖にすることはできません。だからこそ神は、御子である神の純粋な子羊を処女マリアを通してこの世に遣わされたのです。父なる神はイエスをこの世に連れて来られ、十字架上で生け贄に捧げられました。その血は振りかけられました。その血は、旧約聖書のいけにえの時代のように注がれました。この究極の愛の行為こそ、イエスが私たちの罪を清められた、血の犠牲によるものなのです。旧約において動物の血が罪をきよめる

ことができるのなら、イエス・キリストの血はどれほど私たちをきよめ、栄光への準備をなさるのでしょうか。

「雄牛や雄山羊の血や、汚れた者に振りかける雌牛の灰が、肉をきよめるために聖別するのであれば、永遠の御霊によって、ご自分を汚れない者として神にささげられたキリストの血は、生ける神に仕えるために、あなたがたの良心を死んだ行いからきよめるのに、どんなにふさわしいことでしょう」(ヘブル 9:13-14) 神は、ご自身の御子の血をどれほど尊重されるのでしょうか。私たちの上に御霊を注ぎ、私たちの心を開き、平安と喜びを与えてくださります。イエスの血は私たちの罪をすべて覆い、心を洗ってくださります。私たちが自分の罪を認め、神に告白するとき、神はわたしたちの罪を取り除き、血の下に入れられます。神は私たちに新しい契約を与えてくださりました！1 世紀のユダヤ人はユニークな人々でした。彼らは旧約聖書の中で、神がアブラハムと結ばれた契約(創世記 17:1-2、9-14 参照)やイスラエルの民と結ばれた契約(出エジプト記 24:1-8 参照)など、神と多くの契約を結んでいました。残念なことに、人間の本性として、ユダヤの民は罪を犯すことによって契約を執拗に破りました。新しい契約は内的なものであり(神は彼らの心に律法を書き記されます)、神の赦しを基礎とするものでした。「見よ、主は言われる、わたしはイスラエルの家とユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る。それは、わたしが彼らの夫であったにもかかわらず、彼らがわたしの契約を破った、わたしが彼らの先祖たちとエジプトの地から彼らを連れ出すために手を取って結んだ契約によるものではないと、主は言われる。」(エレミヤ 31:31-33) イエスがご自分の血を新しい契約の始まりと語られた時(ルカ 22:20 参照)、イエスはご自分の死によって、神に近づく全く新しい方法が開かれると事実上言われたのです。肉体的なイスラエルではなく、生きている教会が真の神の民であると言われました。今日、イエス・キリストを信じ、イエス・キリストに仕えるすべての聖徒は、その契約の一部であり、万人祭司の位にあります。「また、忠実な証人であり、死者の初穂であり、地の王たちの君であるイエス・キリストから。私たちを愛し、ご自身の血によって私たちを罪から洗い、神とその父のために私たちを王と祭司とされた方に、栄光と支配がとこしえにありますように。彼に栄光と支配がとこしえにありますように。」(黙示録 1:5-6) 今日、動物のいけにえはイエスの血に取って代えられました。

今日、外部の神殿は私たちの心の中に移されました。今日、私たちはもはや、私たちのために神に請願するために、遠く離れた祭司に頼る必要はありません。私たち一人ひとりが、神と個人的に対話するよう任じられました！今日、旧約は新約に取って代えられましたので、私たちは、人間の霊的歴史の中で、神の栄光の最大の顕現を見ることができます！

「その栄光の輝きであり、その御姿の表れであり、その力のことばによって万物を支えておられるお方である神は、私たちの罪をご自分によって清められた後、いと高き御方の右の座に着かれました。」(ヘブル 1:3)

第3章

終わりの日の栄光

イエスは、私たちの唯一の、聖なる、完全な、最後のいけにえとして喜んで立たれただけでなく、私たちのために「神の御前に現れる」ために、喜んで、用意を整えて待っておられます！キリストは、手で造られた聖なる場所に入られたのではなく、私たちのために神の御前に現れるために、天そのものに入られたのです！（ヘブル9：24参照）この小冊子を読みながら、あなたの人生に残っている罪を悔い改めて、完全に血潮の下に入るようにチャレンジしましょう！そうすれば、あなた自身が祭司の宮として神の栄光を見る準備ができるのです！神は、私たちの人々が立っていられないほどの力と臨在をもって、神の栄光を私たちの集会に送り込みたいと願っておられます！しかし、そうなる前に、私たちは主の血潮に私たちの罪と心を洗っていただかなければなりません。今こそ、私たちと神との間に立ちほだかるすべての罪を取り除く時であり、血の下に入る時なのです。

「救いをもたらす神の恵みは、すべての人に現れ、不敬虔とこの世の欲望を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、神にふさわしく生き、祝福された希望と、偉大な神であり、救い主であるイエス・キリストの栄光の出現を待ち望むようにと、私たちに教えています。イエス・キリストは、私たちをすべての不義から贖い、良い行いに熱心な特別な民をご自身のために清めるために、私たちのためにご自身をお与えになりました。」（テトス 2:11-14）
今日、あなたの心を完全に、イエスに開いてください。大きな挑戦と大きな勝利がやってくるのが見えます。神の御霊が注がれるのが見えます。私の言うことを信じなさい。これが神の方法です。

神はこう言われています、『罪を悔い改めなさい。私はあなたを祝福したい。私の栄光を注ぎたい。私のシェキナ（臨在）を見せたい。』私たちを栄光と徳とに召してくださった方を知ることによって、いのちと敬虔とにかかわるすべてのものを、その神の力が私たちにお与えになったように、私たちには、非常に偉大で尊い約束が与えられています。』（Ⅱペテロ 1:3-4）

悩みの絶えない今日、離婚がクリスチャンとノンクリスチャンの両方の家庭を同じように激しく襲い、児童虐待、アルコール中毒、薬物が今や私たちの文化の主要な部分を占めているように見えます。ポルノや中絶が人間の命と魂を殺し、クリスチャンの指導者たちがしばしば模範ではなく、聞こえの良い言葉によって指導するとき、この地上にある無数の道徳的問題を解決できるのは、神の力だけなのです。法律では解決できません。ピケを張ってもだめです。神の力以外、私たちを救うことはできません。

しかし、背を向けているクリスチャンやノンクリスチャンたちは、神の力を見なければ、どうやってその力を知ることができるのでしょうか？ノンクリスチャンが神の栄光が人に臨むのを見るとき、彼らは恐れおののき、罪を悔い改め、神と正しい関係になります。サウロがダマスコへの道で神の栄光を体験したとき、そうになりました。それは彼の全存在を揺さぶり、

彼は実際に視力を失いました。「そして、その光の栄光のために見えなくなったとき、私と一緒にいた者たちの手に導かれて、ダマスコに入った。」(使徒 22:11) 神は、異教徒に証しをもたらすために栄光を現され、あなたを繁栄させ、祝福し、体を癒すために栄光を現されます。神の御霊と力が私の内側にあるからです！「今の苦しみは、私たちのうちに現される栄光と比べるに値しない。」(ローマ 8:18) 私たちは神の生きた神殿であり、私たちが今経験していること、そして間もなくますます激しく経験することになることは、私たちが永遠に経験することの、ほんのわずかな反映にすぎません！

ヨハネが黙示録で天国をどのように描写しているかを見てみましょう。「神の栄光が都を照らし、小羊がその光だからである。救われた国々の民は、その光の中を歩き、地の王たちは、その栄光と誉れをそこにもたらず。そして、その門は昼も夜も閉ざされることはない。」(黙示録 21:22-26)

私は、ソロモンが神殿を建てたとき、神がその日を祝うためにトランペット奏者と歌い手たちを連れてくるように告げられたように、神が私たちの人生に神の力、神の油注ぎ、神の栄光をもっと送られたいから、この啓示を私の霊に置かれたのだと信じています！「主の家も雲で満たされた。主の栄光が神の家を満たしたからである。」(Ⅱ歴代誌 5:13,14) 神の輝きと栄光はあまりにも偉大であったので、集まった会衆は、歌い、賛美し、主に感謝することによって一つになり、神の家全体が青っぽい雲で満たされました！彼らは神を賛美しました。愛する皆さん！私は、すべての FGBMF の大会が、歌い、賛美し、神に感謝することによって統合され、すべての会堂が主の家となり、空気が青っぽい雲で満たされることを願っています。それによって私たちは奉仕するために立ち上がることさえできなくなります。絶えず主を賛美しましょう。祈りと賛美の時間を過ごすことによって、チャプターミーティング、会員総会、全国大会、アウトリーチに備えましょう。

聖書は、賛美と礼拝は、私たちの生活の安定した継続的な一部であるべきだと教えています。「パウロとシラスは獄中から神を賛美した。」(エペソ 5:20)「パウロとシラスは、牢の中から神を賛美した。そして、真夜中になると、パウロとシラスは祈り、神を賛美した。」(使徒 16:24,25) 賛美は、主が来られることを望まれる環境を整えます。主はパウロとシラスの獄舎に入り、彼らを束縛から解き放たれました。

なぜなら、賛美は天における主の普段の快適な住まいであり、主がご自分の臨在を力強く自由に現することができる地上の環境だからです。私たちは主を賛美するために造られたのです！「しかし、あなたがたは、選ばれた世代であり、王家の祭司団であり、聖なる国民であり、特別な民である。今日、この神の臨在があなたを力づけるのだ！ヨシュアの時代、契約の箱は神の臨在がありました。しかし、箱を民の前に渡す前に、一つの命令があったのです。

「ヨシュアは民に言った、『あなたがたを聖別しなさい。明日、主はあなたがたの間に不思議を行われるからである』」(ヨシュア 3:5) 私たちは箱です！私たちは神殿なのです。私たちが自らを聖別するとき、神は栄光のうちに御自身を現されます！ヨシュアが自らを聖別した後、神は彼をヨルダン川を渡らせ、新しい土地を与えられました。「民がラッパの音を聞き、

大声で叫ぶと、城壁は平らに崩れ落ちた。」(ヨシュア 6:20)

見えますか？イエスのために、しるしと不思議をもって前進するために、あなたの町を、私たちの土地を取る準備ができていますか？もしそうなら、私たちは自分自身を聖別しなければなりません！今すぐ、あなたの人生のあらゆる罪を悔い改めましょう。主の溢れるシェキナ（臨在）の栄光を受け取る準備をしましょう。信仰を持って、自分の人生で主の栄光を経験できると信じましょう。「イエスは彼女に言われた。もしあなたが信じようとするなら、神の栄光を見ることができるはずだと、わたしはあなたに言わなかったではないか。」(ヨハネ 11:40) イエスは、私たちの唯一の、聖なる、完全な、最後のいけにえとして喜んで立ち上がられ、今、私たちのために "神の御前に現れる"ために、喜んで、準備して待っておられます！

「キリストは、手で造られた聖なる場所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。」(ヘブル 9:24)

今すぐ、私たちの主であり救い主である神様に向かって、心を込めて大声でこの祈りを唱え、神の栄光を見る準備をさせていただきます！

「天の父よ、私の人生にはある罪があります。父なる神様、イエスの御名によって、私の人生にある偶像を殺し、あなたと私の間にあるものを終わらせます。主よ、これらの罪をあなたの尊い血で覆ってください。

主よ、私の罪をお赦してください。私を清め、清めてください。そしてあなたの栄光を、あなたの臨在を、今、私の人生にお与えください。

主よ、神の力を私の人生に受け入れるために、私の心を開きます。癒しを受け取ります。イエスの御名によって、あなたの油注ぎを受け取ります。アーメン」